

「府民 秋の自然観察会」の報告

実施日：2021年11月21日（日）

於：愛宕山



「府民 秋の自然観察会」 愛宕山におけるアカガシの群落観察記録

主催 （一社）京都府山岳連盟 主管 自然保護委員会

＜概要＞ 紅葉の愛宕山麓、清滝から愛宕神社方面までの表参道を、アカガシ林の巨木観察をしながら登る。登山道脇のアカガシの巨木の樹周りを計測して、3m 越えの巨樹を確認。また併せて、愛宕山、愛宕神社の地歴などの造詣を深める。昼食は旧ケーブル跡の建物の前広場でとり、水尾別れから表参道を下山した。

【日 時】2021年（令和3年）11月21日（日）午前9時集合—午後3時解散

【観察場所】京都市右京区「愛宕山表参道」

【気 象】晴れ、気温9度（9時集合現在）

【行 程】清滝川金鈴橋西詰（集合）—三合目—五合目—七合目—水尾別れ—旧ケーブル跡（昼食）—表参道—清滝川金鈴橋（解散）

【配布資料】地図3枚（国土地理院2万五千分の一） アカガシについて、愛宕山の地歴、三角点について（A4版14P）

【参加者】36名（内、自然保護委員10名）

観察会詳細 ① 9:00 集合（清滝川金鈴橋西詰）

山本委員長挨拶

・自然観察の目的、アカガシについて

杉村委員

・愛宕山の地歴について





② 9:15 登山口二の鳥居

山頂神社まで 50 丁

「一丁ごとの、お地蔵さんは皆さんの無事をまもってくださいます。」

「伊勢へ七度、熊野へ三度、愛宕さんへは月参り」

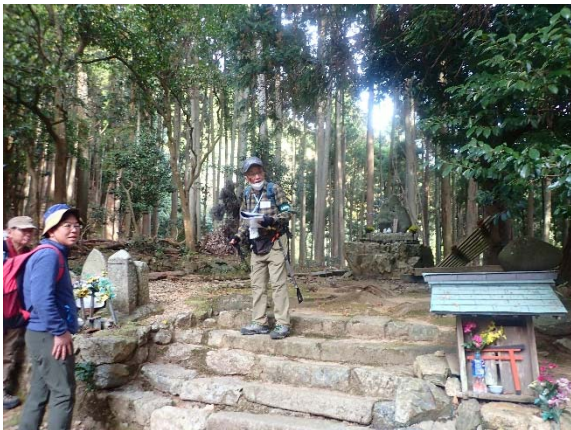


③ 9:30 嵯峨小学校清滝分教場跡

分校は明治 15 年創立、大正 11 年火災で焼失。

1 年、2 年生のみが通う。ケーブルが通ると廃校。

廃校後、建物は清滝自治会に寄贈され清滝会議所となった。



④ 9:35 火燧（ひうち）の社跡

「17 丁目に二間幅、奥行き一間の朱塗りの社があり、火の神をお祀りしていました。京洛に火事が起これば、鳴動したところから、名付けられたと言います。」



⑤ 9:50 最初に現れたアカガシ（標高 260m 付近）

樹皮がはがれ中の赤い肌が見えている。アカガシの名の由来。葉は全縁（葉の縁に鋸歯がない）か葉先に波状の不明瞭な鋸歯を持つ。

※巨樹は幹回り 3.00m 以上の木を言う。（地上 1.3m の計測）

3m 未満の木は、巨木



⑥ 10:15 一文字屋旧跡

この参道に約 30 軒のお茶屋あった。

「現在、京都バス清滝バス停前で営業されています。愛宕ケーブルが開通後、駅舎の 2 階で飲食業を営まれています。」

⑦ 10:20 三合目「なかや旧跡」 参加者全体写真



「落語愛宕山に登場する茶屋。今は渡猿橋のたもとで営業。愛宕名物志んこも食べられます。」



⑧ 10:30 幹回り 2.3m のアカガシ

三合目付近から巨木が目立ち始める。付近に 2.11m もある。

⑨ 10:55 五合目標高 549m 付近の巨木 幹回り 3 分枝合計 3.67m
すぐ横の単幹のアカガシは幹回り 3.23m (迫力はこっちのほうが勝る)

※ 右斜面の下部に巨木が見えているが計測不可能





⑩ 11:30 土器（かわらけ）投げ場

標高 600m 辺りから、モミの木が目立つようになってくる。クリスマスツリーに似た木だが、クリスマスツリーはドイツトウヒ。

「眺望がよく和歌山、淡路島まで見通すことが出来ました。大念仏狂言愛宕参りではお参りに来た旦那とお供が茶屋の女とカワラケ投げを一緒に楽しめます。」



⑪ 11:40 水尾別れ コース変更の指示

予定では愛宕神社まで行くつもりでしたが、往復で1時間半から2時間、下山して3時50分のバスに間に合わないので、上部は打ち切り、ケーブル跡で昼食にして下山する旨を伝達。



⑫ 11:50 愛宕ケーブル駅跡（昼食）

「京阪電気鉄道」と「京都電燈」の共同出資会社で「愛宕神社」へ向かう参詣路線として建設されました。開業当時は「愛宕山ホテル」「愛宕山遊園地」「飛行塔」が営業し賑わいました。昭和19年、軍事物資不足のため「不要不急線」に指定され廃線になりました。

⑬ ケーブル駅舎跡



⑭ 金鈴橋付近の黄葉



文責（写真含） 自然保護委員 服部忠
観察会資料 山本憲彦・谷角裕之 地歴 杉村忠重・
岡田茂久